

# 中部ブロック会報 第27号

平成24年度中部ブロック研究会【1日目】2013年1月5日(土)【2日目】2013年1月6日(日)

開催地:名古屋経営短期大学 〒488-8711 愛知県尾張旭市新居町山の田3255-5

**【平成24年度・中部ブロック研究会を終えて】**

ブロックリーダー 米本倉基



平成24年1月5日・5日の2日間、愛知県の名古屋経営短期大学において、今年度ブロック研究会が開催され、今回も、会員等30名、プレゼンテーション・コンテスト出場学生8組9名、そして藤田保健衛生大学の学生スタッフを加えた大変賑わいのある研究会となりました。

研究発表に先立ち、ブロック委員による運営会議、続いてブロック総会が開催され、次期ブロック役員を選出と承認が行われました。詳細は巻末の一覧表をご覧くださいと思いますが、とりわけ今回は、3期わたって北陸地区のリーダー役として、ブロック発展にご尽力賜りました富山短期大学の太田佑一先生が、役員任期満了ということで、やむなく一旦ご退任ということになり、また、もう一方ご退任となった修文大学短期大学部の佐久間潔先生にも、過去にはブロック研究会開催校をお引き受けいただくなど大変お世話になりました。あらためて深く感謝申し上げます。ぜひ、今後ともご指導を頂戴したく思っております。一方

で、新役員ということで、パワフルな名古屋経営短期大学の西川三恵子先生に復帰していただき、さらに比較的会員の少ない信州地区の仲間を増やしていただくということで、佐久大学信州短期大学部の齋藤和幸先生にご就任いただくことになりました。6月からこの新体制で2年間ブロック会員の皆様のお役に立てますよう務めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ご挨拶の終わりになり恐縮でございますが、今回の研究会開催にあたり、こころよく会場を提供くださいました名古屋経営大学の古橋エツ子学長はじめ関係者の方々には大変お世話になりました。この場をかりまして御礼申し上げます。

**【学生プレゼンテーション・コンテスト】**

審査委員長 清水たま子

**最優秀賞:松沢美佐(富山短期大学)****優秀賞 :館磨美(富山短期大学)**

代田明日香(名古屋経営短期大学)

**奨励賞 :金山里帆(金城大学短期大学部)、櫻井滉子(金城大学短期大学部)、菅沼賀代・早川結衣(名古屋経営短期大学)、三上彩佳(岡崎女子短期大学)、牧野麗香(岡崎女子短期大学)**

4つの短期大学から8件の発表がありました。初めて審査をいたしまして、順位をつけることがいかに難しいかということを実感しました。評価基準が設けられ、4人の審査員が点数化し、最後に全員の点数を合計して順位を決めるのですが、それが僅差なのです。ど

こに主眼をおくかという主観的な見方では差があるのですが、点数を合計すると、大きな差は見られませんでした。

年々質の向上が見られるというのが、審査員全員の印象でした。すると、要求はさらに高くなって、内容、パワーポイントの出来栄はもとより、話し方・発声・声の強弱に加えて、発表者自身の身だしなみ、表情、立ち振る舞いまでがチェックされるようになります。前髪で顔を隠してしまうと表情が暗くなってしまふ、ふとした表情がお高く見えて、内容の真実味が薄れるという具合です。

多くの人たちにものごとを知らせ、わかってもらい納得してもらうために、プレゼンターには全人的なものが求められるという、特別審査員として加わっていただきました中村健壽先生の言葉が私の胸に残っています。それは、いつもそのような場面に立たされている私ども教員こそ、肝に銘じておかなければいけないことだと思います。よい勉強をさせていただきます。

## 助成研究発表【四大と短大の就業力育成融合モデルの検討】

手嶋慎介(愛知東邦大学)、野添雅義(高山自動車短期大学)、岡野大輔(金城大学)、加納輝尚(富山短期大学)、河合晋(岡崎女子短期大学)



本助成研究では、四大と短大の就業力育成教育の実践を比較することで、その融合モデルの構築を試みた。第31回全国大会(2012年6月)における就業力育成シンポジウムでは『四大・短大及び学部・学科の違いなく「かたち」から入る就業支援を正課教育に取り入れることの重要性』を結論とした。その後、あらためて融合モデルの検討を開始、本発表は、共同研究者が所属する四大・短大における『「かたち」から入る就業支援』を中心とした事例の検討を通じたものである。本共同研究の限界は、各大学で多様化する「就業力」定義を一括りにして捉えた結果、学生の就職(および就職活動)に焦点を置いたモデル構築という方向性にとどまったこと、および実践から得られた知見に基づく育成

手法の効果に関する実証的研究が不足していることである。今後、「就業力」定義の精緻化あるいは「ジェネリックスキル(汎用能力)」育成を前提としたモデル構築をすすめる等の必要があるだろう。

## 研究発表【段階的な概念地図作成活動による企画力養成の試み】

尾関 智恵 (岡崎女子短期大学)



企画作成力は高度な知的作業のため、経験者のみが実施可能と考えられがちであるが、機会さえあれば若年層の人材での発揮できる能力と考える。特にアイデア創出の場面では既成概念を超える事が注目されがちだが、経験が邪魔となることもしばしば起こる。つまり企画作成力の中心となるのは問題解決に関する能力であり、これがなければ実現成功につながらないと考える。そのためには、解決に至るまでの情報整理などの作業が企画力養成においては重要と考える。本研究では企画作成力の効果的育成を目指し、学生自ら解決法の提案ができるようになる活動をプロジェクト型講義内で実施した。具体的にはアイデアを二次元配置・可視化させる概念地図を

用い、共通認識を作ったり操作したりできるツールとして活用した。今回の発表では、学習過程の状況報告を行い、概念地図を利用する事によりグループ内で協調的に系統だったアイデアを創出できうる可能性を探った。

## 研究発表【営業でのプレゼンテーションの実際-ホンダ系ディーラーの「営業職向け話し方教室(出張講座)」の体験-】

戸田 昭直 (浜松学院大学)



車、住宅、保険などを扱う営業形態の場合、「(お客様に)プレゼンテーションを許される」という言い方がある。信頼・ラポールの確立、お客様のニーズの確認が上手くいかないと提示のプレゼンテーション段階に進めないという意味である。出張講座の体験をふまえて、グループワーク「お客様と信頼関係を築くために、私が・私たちができること」を実施した。グループワークの授業では学生全員が車のディーラーの新入社員と仮定し、KJ法を体験しながら課題に取り組みさせた。今回の授業実践は、学生にとって営業職の実態を知ることができる学習内容であったので興味・関心を持つことができたようであった。また、ビジネス実務教育の存在意義のひとつに「ビジネス実務(仕事)と

大学での教育をつなげる」という特徴があると考え、その試みのひとつとして、意義のある機会となった。

## 研究発表【学生による産学共同ポータルサイト製作と学習効果に関する考察】

-起業意識調査を踏まえて-

河合晋・町田由徳・尾関智恵・諏訪純代 (岡崎女子短期大学)



本研究では、岡崎市内4大学・短期大学の学生に対し、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス(以下「SBCB」)についてアンケートを実施し、社会問題や地域課題に対しビジネス手法を用いて解決する意思があるか、SBCBも職業選択の対象となるか等を調査・分析した。また、カリキュラムにPBLを導入するための取組みとして、岡崎市青年経営者団体連絡協議会との協同による「ポータルサイト制作」について報告した。経営者のキャリアをインタビュー記事にすることで、学生自身のキャリア形成への意識向上、起業家意識の醸成などが期待される。そこで、「ポータルサイト制作」参加学生と非参加学生とを比較し、事前授業と事後授業を通じた学習効果の有無について考察した。

学生のSB・CBIに関する認知度と関心度には大きな差があり、そこに高等教育の必要性があり、「ポータルサイト制作」参加学生に一定の学習効果があることから、これを正課内にどう取り入れていくのかの検討が必要である。



## 研究発表【本学における観光ビジネス教育の取り組みについて】

島宗俊郎、西川三恵子（名古屋経営短期大学）



本発表は、本学における平成13年度より行われている観光ビジネスコースについて、本学の特性を活かした「観光ビジネスコース学生の目指す人物像」、特にキャリア秘書コース科目との関わりについての若干の考察、また、これからの時流をも交えた視点についてまとめたものである。課題としては、情報化社会の急速な発達により、現代では個人の携帯電話からもネットワークを利用して、ホテルや飛行機・新幹線などの予約を行うほうが廉価で簡単にできるようになり、以前にもまして旅行業者の能力・資質が問われるようになってきているため、国家資格である国内旅行業務取扱管理者試験の合格率をあげることが必須の課題であろうと感じている。

## 研究発表【『もしドラ』ブームを踏まえた経営学教育の方向に関する一考察】

奥村 実樹（金沢星稜大学）



2010年度の年間ベストセラーで大ヒットを記録した岩崎夏海氏の『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』（以下、『もしドラ』と略）。本報告では、『もしドラ』ブームと経営学教育の関連性、そこから生じる課題について扱った。まず、『もしドラ』ブームについて、ブームの状況とブーム化した原因について述べた。次に、ドラッカー自体、経営学者に分類されることから、この『もしドラ』ブームの経営学教育における意義について述べた。高校野球部がドラッカーの説を実践して甲子園を目指すストーリーであるため、それを実際に真似した複数の運動部の事例を取り上げた。そこから、経営学説をストーリー化して学ぶ（応用・実践する）ことの教育的効果を肯定した上で、ストーリー化することの問題点（制約条件）を指摘し、むしろより一般的な学生等の学習者が教室で実行できる、主体的な振り返り型の経営学説学習の可能性について述べた。

りー化して学ぶ（応用・実践する）ことの教育的効果を肯定した上で、ストーリー化することの問題点（制約条件）を指摘し、むしろより一般的な学生等の学習者が教室で実行できる、主体的な振り返り型の経営学説学習の可能性について述べた。

## 研究報告【簿記講義のシラバスの再検討について】

河合 晋（岡崎女子短期大学）



学生が希望する就職先を考慮して、学生ニーズに合致した会計教育を実施する現実性があるが、本学における学生の会計に対するニーズは、日商簿記検定に合格することである。就職活動開始時期との関係から、簿記初学者は11月実施の検定に合格することが目標となるが、講義が前期15回、2ヶ月程度の夏期休暇を挟み、後期の数回の中で3級に合格できるだけ知識習得と演習が必要となる。簿記講義のシラバスにおいて、上記事情を前提に作成すると、自ずと講義の進度を早める必要がある。今年度、一部の学生がその講義進捗についてこられない状況が生じた。学生の学力レベルの問題の他に、シラバスの再検討を試みる必要が生じたので、学生に対してアンケート調査を実施した。

その結果、簿記初学者は簿記学習経験者や日商簿記検定合格者と比較して、集計作業を要する分野を苦手としているため、当該分野に時間配分を重点化したシラバスにする必要がある結果となった。

## 事例報告【中小企業会計の改革とビジネス実務への影響】

加納 輝尚（富山短期大学）



本研究は、平成24年2月1日に公表された「中小企業の会計に関する基本要領」が、中小企業のビジネス実務に及ぼす影響を、税務会計面、資金調達面及び簿記教育面から考察したものである。本要領は、税法と親和性の高い記述がなされている。しかし、現実には会計と税法は乖離が進んでおりジレンマが生じている。また、本要領の普及・活用の事務局に金融庁が関わっているため、資金調達面から、本要領のビジネス実務現場における実効力が与えられている。教育面において中小企業会計は、簿記・会計の基本を理解した学生に対して部分的あるいは全面的に広く学習項目(シラバス)に取り入れられるべきである。今後は、受講生のジェネリックスキルが、簿記・会計の応用期の学習項目

としての中小企業会計の理解度に与える影響などを研究してシラバスを構築していきたい。

## 【懇親会】

運営委員 中村 則子



会場は名古屋経営短期大学のご厚意により、尾張旭市から名古屋市内を一望できる素敵なスカイラウンジです。この会場への移動はリーダー米本倉基先生の発案により、お墓の中を歩くという怖さ半分、興味津々、寒い時期の肝試し体験です。一転、眺望抜群の夜景にうっとりする綺麗な所でした。会は元リーダー岡野絹枝先生、会場校より学長の古橋エツ子先生にご挨拶いただき、中村健壽先生(川崎医療福祉大学)の乾杯のご発声で幕を開けました。そして、佐久間潔先生の進行で、今回久しぶりにご参加なされた先生方やプレゼンテーションで受賞された学生さんにもご挨拶いただきました。その後はゆっくりとした時間を過ごし、会員間の親睦がより深まったのではないかと思います。締め

は恒例、大崎佑一先生の一本締めで幕を閉じました。

最後にブロックが変わられてもいつも気にかけてご参加くださる先生がいらっしゃることに運営委員一同、感謝しております。皆様、来年もお元気にお会いいたしましょう。

## 【次期、平成25・26年度新運営委員一覧表;交代は6月全国大会終了後】

本年度の総会で下記のように次期(平成25・26年度)のブロック運営委員が選出されました。

・リーダー・本部常任理事	米本倉基	(藤田保健衛生大学:3期特任)
・サブリーダー(北陸地区)・本部理事	國田千恵子	(金沢学院短期大学:3期特任)
・サブリーダー・本部評議員	西川三恵子	(名古屋経営短期大学:新任)
・運営委員(会計)	河合晋	(岡崎女子短期大学:2期)
・運営委員	手嶋慎介	(愛知東邦大学:2期)
・運営委員(信州地区)	斉藤和幸	(佐久大学短期大学部:新任)
・運営委員	中村則子	(名古屋学芸大学短期大学部:2期)
・本部評議員	大崎佑一	(富山短期大学)

## 【今後の予定】

- 1 【2013年全国大会】に参加しよう! 第1号通信がすでに送られました。  
〈日時〉 2013年6月8日(土)10:00~9日(日)12:05  
〈場所〉 福島学院大学 (福島県福島市宮代乳児池1-1他)  
〈統一テーマ〉 ビジネス実務教育を活用したジェネリックスキルの育成

- 2 【ブロック研究助成:6月の全国大会で指定報告】  
〈2012年度の助成研究決定〉  
ビジネス実務教育を活用したジェネリックスキル育成の実践事例報告」  
手嶋慎介氏の研究グループ

- 3 【2013年度 ブロック研究会】  
平成26年1月11日(土)・12日(日) 於 金沢市 予定

## 【編集後記】

ブロック・サブリーダー 大崎 佑一



自民党が約3年ぶりで政権復帰を果たし、長引く円高・デフレ不況からの脱却を目指した政策が打ち出されて、円高修正が進むと同時に株価の上昇も続きました。こうした政策が大学生などの若年雇用の拡大や、確実な経済成長につながることを是非とも期待したいものです。今年度も中部ブロック研究会には新会員の方々が加われ、懇親会での新会員紹介の光景を見て、私事ながら私が7年前に新会員として諸先輩の前で自己紹介したことを思い浮かべました。新会員になられた皆様のフレッシュなエネルギーを本研究会に注いで頂き、またビジネス実務や教育技法の開発についても新しい視点を提供して頂いて、中部ブロック研究会が益々発展することを願っています。最後になりましたが、今回執筆下さいました皆様に感謝を申し上げます。